

# コラム

## 「犬の飼い方“ワン”ポイント」



長嶋動物病院（見沼区東大宮）  
獣医師 長嶋 成憲

### 【経歴】

昭和43年 日本獣医畜産大学卒業（現：日本獣医生命科学大学）  
卒業後東京都内及び浦和市内の動物病院内に獣医師見習いとして勤務  
昭和47年11月長嶋動物病院に婚姻と共に就業、犬のフィラリア症を中心とした研究グループに所属、30年以上にわたり外科療法、内科療法について研究を続け、日本臨床獣医学会（関東）にて発表。最優秀賞を2回受賞。  
フィラリア症の手術法については、世界大会でも発表。

今回は飼い主の犬に対する接し方と犬の性格の関係について、個人的に観察した結果を分かりやすく、まとめたものです。  
犬のしつけやトレーニング法とは異なります。

住居の中に自然物があると人は何となく癒される、庭があればそこに何か植物を植えたくなり、部屋には観葉植物や花、その他小動物を飼う等、人は自然物と常に生活したがるものである。アポロ計画の衛星の中で一番話題の多かった内容は麦を発芽させ、その生長ぶりを観察することであったと聞いたことがある。

日本人が家庭で管理する自然物の中で一番苦手なものが犬の飼い方であると筆者は考えている。  
アメリカで見た光景である



ロープを放すと犬が勝手にお座りして、通る人が犬の頭を撫でてでも知らん顔している。のんびり飼い主は買い物をして袋からウインナーの一切れを放り投げると犬はそれをパクッとくわえてさり気なく飼い主について行く。どうやって躰けたか尋ねると「何でそんな事を聞くのか」と不思議がられる。

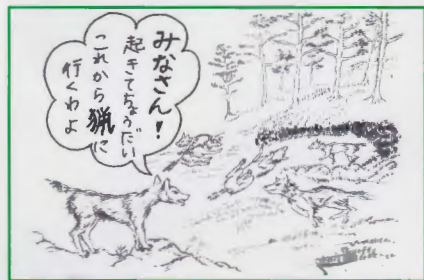
15歳くらいの子どもに犬の飼い方は？と尋ねると「リーダー」と答える（親分になってあげなさい。決して犬の部下になってはいけません）と云う意味であり社会通念になっているらしい。

活することが都合よく馴染み深いため、日本人の誰かが猫を飼っても失敗が少ない。狩猟民族は、犬が必需品でその管理を知り尽くしている。

犬の祖先は狼とされている。狼は数匹から15匹くらいの群で生活している為一匹の犬でも群の一員のつもりである。そして、飼い主も群の仲間と考えている。人間の生活の中でも群を必要とする場合がある。球技等のスポーツのリーダー・軍隊・救護隊等であり、そのリーダーになったつもりで犬を飼うと良い。

自然動物の中でもリーダーが強ければ強いほど部下は安全であり安心するのである。

我々日本人は農作物をネズミから守るのには猫と生



上の絵を見て理解できると思うが、優し過ぎる飼主は部下にとって不愉快で尊敬したくありません。褒めているつもりでも犬は少しも喜びません。親分のいない生活。これは猫の飼い方で、愛情を込め優しく育てる方法では不幸な犬を作りあげてしまいます。《親分が居ない生活は我が身を我が身で守ろうとするので恐ろしい性格の犬になります》

犬が問題行動を起こす、その殆どが教育のスタートの遅すぎと主従関係の失敗です。

犬種にもよりますが、子犬のときから自由奔放、愛情を込めて育てられた犬は生後6カ月をすぎると、リーダーつまり親分になってしまい、飼主の云う事を聞きません。それと同時に犬の本能で部下を守らなければならない責任感が誕生します。(家族以外の人に攻撃的になる)よく吠え机を噛む、スリッパはボロボロ、おねだりはうるさくなる。こうなると飼主の殆どは自己流の教育を始めます。飼主が手で叩いたり棒で突いたりすると、犬は手を嫌い手に咬みつくようになります。もしリーダーに向かって部下が叩いたり突いたりしたらどうなるでしょうか。ますますパニックになるでしょう。《凶暴犬はこうして作られます》凶暴な犬の治し方の基礎は「犬を無視する事」です。食事でも少なめにします。足りない分は手から与えます。どのようにねだったら人に好まれるか犬が勝手に考えてくれます。

犬に日本語と英語ではどちらを使った方が良いか比較してみよう。日本語では「こら！いけません・どうして言う事かかないの」などと、どなり続けると感情が高ぶり、そのうち手が出て折檻せつかんになってしまう傾向があり、日本人は教育とは「しかること」だと勘違いしてしまうひとも多いが、英語では、「ストップ」「ノー」「ウェイト」「ダウン」などさまざまな声を

出して折檻せつかんの感情が生まれて来ないのです。これは、日本語は命令調であり英語は号令だからです。

「群」又は「大勢の人」を扱うには、号令が自然です。日本語を使うとスポーツマンの指導の中でも無意識に体罰が生じてくるのは日本語に原因があるのかもしれない。《指導者は英語による号令を使った方が良いのでは…》

それから更に英語は言葉が短く覚えやすいが、日本語は「こっちに来なさい」「おすわり」「ふせ！どうしてふせをしないの」と日本語は言葉が長く犬が覚えにくく英語は常に上から目線の声の出し方になっているので親分らしい発声の為、犬が安心するのです。

### いつから教育したらよいか

自然動物は早めに教育しないと他の動物に餌食にされます。犬を飼ったその日から教育して下さい。特に生後3カ月以内に教育してくれた人は生涯リーダーとして尊敬されます。《犬の3カ月は人の3~4歳です》私は、初対面に子犬の首の後ろの皮膚をつかみお腹を上に乗せ静かになるのを待ちます。

### 全く教育を必要としないで おとなしく、吠えない、咬みつかない、 静かな犬をつくる方法があります

ペットショップに1カ月以上売れ残った犬を買ってくるか又は生後3カ月前から昼間留守にしてサークルに入れっ放しにすればよい。

忙しい人が犬を飼うとおとなしい犬が出来るのはここに理由がある。またもう1つ。3カ月以前から番犬の目的で外に繋ぎ放しにすると吠えない静かな犬が出来ます。番犬になりません。

3カ月以内は何でも馴染んでくれますので、独りぼっちが当たり前で鳴けど騒げども、誰も来てくれないと、意思表示が出せなくなってしまうのです。本来の犬の飼い方ではありませんが、このような犬には愛情をいくら込めても問題はおこりません。そしてアパート、マンション等でも飼う事が出来ます。日本人にはこの様な飼い方が良いのかもしれない。犬も皆に可愛がられます。

### その他良い犬をつくる為の注意すべき事として

- ・食事は人間が先に食べて犬は後から食べさせる。
- ・犬をソファやベッドの上で寝かせない。
- ・ドアから外に出る時犬を先に出させない。
- ・散歩で、犬を人より先に歩かせない。
- ・寝転んでいる人の上に乗せない。
- ・肩の上に乗せない。

すべてリーダーの振る舞いです。参考にして下さい。